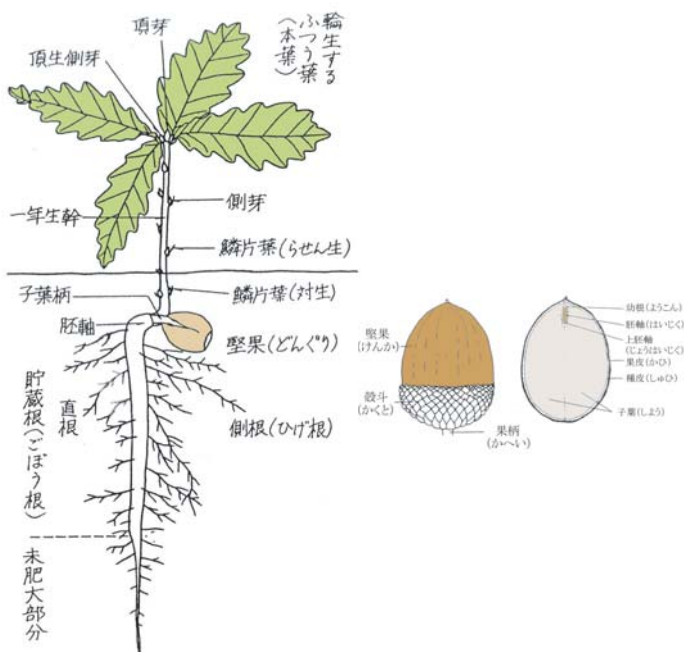


ミズナラの赤ちゃんの育て方

—ポット苗の作り方—



1. ポット苗づくり（牛乳パックの場合）

- ①牛乳パックの底に4ヶ所7～8mmの穴をとがったハサミで開ける。側面にはそれぞれ10ヶ所くらいバラバラに釘や錐で穴を開ける。
- ②赤玉土（小粒）と腐葉土を2：1（あるいは7：3）の割合でよく混ぜて用土をつくる。
- ③用土を牛乳パックの底に5cmほど入れる。
- ④根を切らないように根堀などで掘り出した苗を、牛乳パックの中につるすように持ちながら、わきから用土を入れて、牛乳パックを軽くトントンとたたいて用土をつめる。
- ⑤たっぷりの水をジョーロで与える。
- ⑥木陰などに、防草シートやビニールシートを敷く。
- ⑦シートの両脇に杭を立てて長い竹の棒を結び、竹の棒に牛乳パックを10cmほどの間隔をあけて、倒れないようにシュロ縄でしばる。



底に穴を開けた牛乳パック



ポットの側面に穴あけ



ポットに用土を入れる



竹でつくった牛乳パックの枠



2 ポット苗づくり（ビニールポットの場合）

- ①直径12cm（あれば13.5cm）のビニールポットを用意する。
- ②用土をつくる。
- ③根を切らないように根堀などで掘り出した苗を、主根が穴から出ないように、ビニールポットの底に「の」の字を書くように入れ、用土を入れる。
- ④たっぷりの水をジョーロで与える。
- ⑤木陰などに、防草シートやビニールシートを敷く。
- ⑥シートの上に10cmほどの間隔をあけて置く。

3. 苗の育て方

- ①用土が乾かないように、水やりを朝か夕方に時々行う。
- ②葉を食う虫（アオバネサルハムシなど）を毎日とりのぞく。
- ③2年苗を育てるときは、牛乳パックがボロボロになったら、あたらしい牛乳パックに植え替える。

用意するもの

- ・牛乳パック ・とがったハサミ ・釘か錐
- ・赤玉土 ・腐葉土 ・スコップ・軍手
- ・根堀り（移植用の小さいシャベル）
- ・ジョーロ ・シート ・杭 ・竹の棒
- ・シュロ縄 ・はさみ ・ビニールポット



アオバネサルハムシ（体長約3mm）



ボロボロになった牛乳パック



埼玉県ではブナやミズナラなどの落葉広葉樹林を代表する樹木は標高約800m以上の山地に見られます。しかし、戦中・戦後の伐採で落葉広葉樹林は激減しました。

ミズナラはブナ科コナラ属の、冷温帯の落葉高木で樹高は30mに達します。材は水分が多く、樹幹はほぼ直立し、太い枝を持つ男性的な木です。ブナと混生したり、純群落を形成します。ブナよりも環境が厳しくやや乾性の土壌のところではミズナラは優勢になる傾向があります。葉は互生し、若葉は両面有毛ですが、やがて裏面のみ短毛と絹毛が残ります。ミズナラは葉柄がほとんどないこと、キョ歯が荒くて鋭いことなどでコナラと区別できます。すべての葉を開いてその年の体制を完成させる一斉展葉型で、樹皮に深い割れ目があります。開花は開葉とほぼ同じ時期（5月）で、当年の10月に長さ2～2.5cmの大きな堅果が成熟し、落下した堅果は短期間に休眠が破れ、幼根を伸長させて越冬します。

ミズナラやブナの根にはキノコの仲間の外生菌根菌がついて木を丈夫にすることも知られています。

百年の森づくりの会 市川 嘉一

制作 NPO法人 百年の森づくりの会

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂三丁目 12-9 農林会館地下1F

TEL: 048-831-1469 FAX: 048-882-0245

<http://www.100nen-forest.org> e-mail: info@100nen-forest.org